

東興ジオテック株式会社 (Toko Geotech Corporation)

<http://www.toko-geo.co.jp>

法面事業本部 技術開発部 吉田 寛 hiroshiyoshida@toko-geo.co.jp



1. 東興ジオテックのあゆみ

東興ジオテックの前身である東興建設株式会社は、1956年3月にアメリカから輸入した吹付機を使用して、建築物の外壁、煙突内の耐火材、水路補修などを専門とする吹付工事会社として設立されました。1974年に実用化して一時代を築いた有機質系厚層基材吹付工（ON 工法）は、法面緑化の汎用技術として定着しています。その後、1990年10月に日米炉材製造株式会社と合併して耐火材の製造・販売分野へ進出し、1995年10月に栃木県さくら市に法面事業と地中事業部門の研究開発拠点となるテクニカルセンターを開設、1996年4月に種子の採取調査貯蔵技術を開発する日本樹木種子研究所を開設するなど積極的な事業展開を図ってきました。そして、1998年から種子の貯蔵計量袋詰施設であるRSセンターの運用を開始し、2002年には早期発芽力検定法（NETIS：KT-060003-A）、2004年には1吹付工程で生育基盤の表層2cm部分のみに種子を混合する、斜面樹林化工法2層吹付システム（NETIS：980148-V）を実用化しました。その後、2006年5月に青木あすなろ建設株式会社の資本参加を受けて高松コンストラクショナルグループの一員となり、さらに2010年6月に地中事業部門を専門とするみらいジオテック株式会社、および爆砕工事を専門とする大和ロック株式会社と合併して幅広い専門工事のニーズに対応できる会社に進化し、社名を東興ジオテック株式会社に改めました。

2. 自然回復緑化の牽引企業を目指して

土木工事を取り巻く厳しい環境の下で私たちが苦戦を強いられています。2007年3月に緑化植物の取扱いに関する4省庁の検討の結果示された「生物多様性に配慮した緑化」に、今後の新しい法面緑化の姿があると考え、自然回復緑化の技術集団としてユニークな工法メニューを取りそろえてきました。今回は、この中から最近実用化した緑化技術を紹介します。

1) レミフォレスト工法（NETIS：QS-110018-A）

自然侵入促進工を適用する上で、法面防災と自然回復を両立させることはとても重要です。低植被率状態でも侵食されない高耐久性基盤の吹付けと、飛来種子を効率よく捕捉する種子定着促進ネットの組合せにより、自然侵入の遅れによる法面保護上のリスクを解消するとともに、吹付けとの併用により凹凸のある岩盤法面にも自然侵入促進工を適用することができます。

2) エコストラライブ工法

従来の全面緑化ではなく、あえて非面的な部分緑化を行うことにより、植物が自然侵入できる空間をつくり、工事で発生するCO₂排出量の半減とコスト縮減を図る工法です。従来工法である全面緑化の壁を打ち破るのに苦労していますが、法面防災を図りながら速やかな自然回復を図ることができます。

3) リサイクルアースグリーン工法

工場生産された生育基盤材ではなく、現場発生土（掘削土やすきとり土）を生育基盤の主材料として吹付けることにより、掘削土運搬や基盤材製造に伴うCO₂排出を抑制して自然回復を図る工法です。独自の土壌改良と吹付技術により、発生土をスラリー化することなく法面に吹付けることができます。

表-1 会社概要と連絡先

商号	東興ジオテック株式会社
所在地	東京都港区芝4-8-2
設立	1956年3月19日
代表者	代表取締役 川瀬勝久
資本金	8,000万円
事業内容	自然回復緑化、斜面緑化、斜面保護、地盤改良、土壌汚染対策、爆砕、保温保冷・耐火、構造物補修などの設計・施工、および耐火物製造・販売
連絡先	お気軽に筆者、または会社ホームページまで TEL. 03-3456-8761（代表） http://www.toko-geo.co.jp



写真-1 左より、レミフォレスト工法、エコストラライブ工法、リサイクルアースグリーン工法